

平成30年度 第5回西日本放送番組審議会

開催年月日 平成30年9月11日(火) 14:00~16:00
開催場所 西日本放送岡山本社 3階会議室
委員の出欠 委員総数 8名
出席委員数 6名

出席委員の氏名

高嶋克洋	委員長
河藤明子	委員
鈴木賢史	委員
守家祥司	委員
森下聖史	委員
藤村晶彦	委員

欠席委員の氏名

佃昌道	委員
大倉美恵	委員

社側の出席者

中村卓朗	(代表取締役社長)
富永久	(取締役総務局長)
中川弘之	(岡山本社中国総支社長)
中川洋一	(営業局長)
小野修一	(報道制作局長)
松村文彦	(報道制作)

事務局

和家剛	(編成業務部長兼放送審議室長)
香山豊宏	(編成業務部兼放送審議室)
山本峰子	(放送審議室)

平成30年度第5回番組審議会議事次第

開催日 平成30年9月11日(火) 14:00~16:00

場 所 西日本放送岡山本社 3階会議室

〔議 事〕

議事進行 高嶋克洋委員長
社側挨拶 代表取締役社長 中村卓朗

1. 議 題 テレビ番組

『 日本のチカラ』

太陽のまちの台所 ～楽しい移動販売&0円キッチン!～』

2. 質疑応答

〔参考資料〕

- 視聴者対応 6月・7月
- 月刊民放 9月
- 民間放送(新聞)9月3日
- BPO 報告 No.191

〔次回開催予定〕

開催日 平成30年10月9日(火) 14:00~16:00

場 所 西日本放送高松本社 5階役員会議室

TEL 087-826-7241

講 演

講 師 日本テレビ放送網株式会社
報道局 ニュースセンター

谷原 和憲 氏

演 題 『 災害報道 被災地を守る
～極端化・巨大化に向き合う放送局～ 』

以 上

今回は、テレビ番組『日本のチカラ 太陽のまちの台所～楽しい移動販売&0円キッチン!～』を視聴していただきました。委員の皆さまからは、

- ・番組中に何度も「やり始め」「続ける」という言葉が出てきたが、「続ける」ことが一番大事なんだという彼の思いを、番組は伝えたかったのだということが、とてもよく理解できた。

- ・番組はとてもよくできており、また今川さん自身がとても上手に説明していたように思う。おそらく登場人物の話し方で番組の味が変わると思うので、番組づくりに際して、本人との打ち合わせを綿密にしていることが伝わってきた。

- ・子どもたちが対象の0円キッチンもとても素晴らしいものだった。余った食品はこども食堂やこどもシェルターで普通は運用するものだが、そうではなくて、食物の大切さを子どもたちに学んでもらっていることにも感動した。この番組を見た若い人たちが元気になってくれればと思う。

- ・SDGsを意識した「継続可能」という言葉の使用や、現在全国で行なわれている「地域力創出」「地域おこし」のモデルとなる事例を取り上げられていることも時代をきちんと盛り込まれていると思う。

- ・移動販売で売れ残ったものをお弁当の材料として再利用していますと、さらっと流せばよかったのが、棚に戻している画像があったので少し気になった。

- ・冒頭部分で、「太陽のまちの元気なお兄さんの物語」とあったが、仁尾町が太陽の町というのは昔のことだ。かつては「太陽の町」のキャッチフレーズを使うのはどうかと思う。等の意見がありました。

制作者側からは、

何故今川さんを選んだかという、香川県出身の私としては香川県ならではの瀬戸内の景色を全国の方に見てもらいたかったことと、移動販売で島に通っているところにひかれました。前回の『ルック』では、表に出なかった本当の姿を側面から引き出す形で取材に取り組みました。そういう中で、ある人が、「今川さんはああ見えているけれど・・・」という話しに始まり、かまぼこ店もかき氷り店も、第三者によるある種の事業承継の形で取り組んでいて、小さな総合商社みたいだと言っていたので、総合商社みたいなことをやっている今川さんの姿を出すことにしたわけです。そういう中で今川さんの人柄が伝わるシーンを中心に編集しました。「新しいことをやり始め続ける」の言葉は、インタビューの中から出たものですが、長時間のインタビューの中で一番心に響いた言葉だったので使いました。「太陽のまちの台所」は、今川さんご自身がキャッチコピーとして使っているものだったので、今川さんの考え方がよく出ているのではないかとそれを使うことにしました。サブタイトルに関しては、東京の助言もあって移動販売と0円キッチンを盛り込む形のものにしました。タイトルにずいぶん悩んだ結果のものですが、これに関しては今後注意したいと思います。旨が述べられました。